

## JR木次線公園化計画について

提案内容	<p>木次線が新設された当時とは交通事情が大きく変わり他の交通手段を使う為に沿線住民の利用が少なくなりました。その結果、6億円の経費が掛かるのに4600万円の運賃収入しかない厳しい状況にあると聞いています。</p> <p>これを解決するには多くの方々に木次線に乗車して頂く道を切り開くことが必要であります。</p> <p>全国の皆さんに木次線に乗車して頂かなくては解決出来ないと考えます。</p> <p>その為には木次線に大きな魅力が必要です。その魅力を木次線沿線全体で創出していく方法しか無いでは無いでしょうか。</p> <p>その方法として木次線沿線を四季折々楽しめる自然の良さが満喫でき、これからの自然環境を良くするためにはこの様な手法も必要だと考える場所も兼ね備えた木次線沿線を世界に一つしかない自然公園を沿線住民が20年程度掛けて建設しては如何でしょうか。</p> <p>この計画の推進に当たっては沿線住民の全面的な協力が不可欠であります。</p> <p>木次線の存続方法について沿線住民に問いかけるに併せ自分達で木次線を残すには何が出来るか考えて貰う必要があると思います。</p> <p>この計画の第一歩として車窓から沿線の景色が見えない箇所について雑木等の伐採を行い景色が見える様にする必要があります。また、景観を良くする為の計画的な植栽（桜、イチョウ、紅葉、コウヨウザン等）も必要があります。</p> <p>日本で初めての鉄道沿線公園化計画について専門家のアドバイスも必要と考えます。</p> <p>この計画は多くの観光客を誘致する事業となり地域経済に大きく貢献する結果を生むようになると思います。これまでの木次線存続の概念を変え新しい発想で木次線の発展を考えてみては如何でしょうか。</p>
回答	<p>木次線に関するご提案をいただきありがとうございます。</p> <p>木次線沿線の四季折々楽しめる景色を整備することで、木次線の利用促進を図っていくとのご提案かと思いますが、ご指摘のとおり車窓から見る木次線沿線の景色は、乗客からは大変好評を得ており、木次線を利用される一つの要因となっているところです。</p> <p>特に奥出雲町のスイッチバック区間では、ループ橋が見やすいように整備されたり、JR側も速度を落とした運行をされるなど、乗客を楽しませる様々な工夫がされているところです。</p> <p>今年度中には、ラッピングされた既存列車が運行予定であり、令和5年度には、トロッコ列車「奥出雲おろち号」が運行終了し、令和6年度からは、観光列車「あめつち」の木次線での運行が予定されています。</p> <p>現在、それらをどう木次線の利用促進に繋げていくのか関係機関で協議を進めているところであり、ご提案のあった雑木等の伐採や植栽も含めた、車窓から見る景色の活用についても検討して参りたいと考えております。</p> <p style="text-align: right;">(回答部署：政策企画部うなん暮らし推進課)</p>